

## 第 48 回鋼構造基礎講座



### 「どうなる？どうする？カーボンニュートラル ～カーボンニュートラルの今を知る～」

鋼構造委員会・鋼構造継続教育推進小委員会では、土木学会継続教育（CPD）の一環として、鋼構造の初級、中級技術者を主な対象とした基礎講座を例年開催しております。今回は多くの方への受講機会提供の観点から、対面方式に加えてオンライン配信により、第 48 回鋼構造基礎講座「どうなる？どうする？カーボンニュートラル～カーボンニュートラルの今を知る～」を開催することになりました。

近年、地球温暖化対策として注目されている「カーボンニュートラル」。設計・施工・維持管理・インフラ整備・プロジェクトマネジメントなど、あらゆる分野・立場の技術者に対して、環境負荷低減の視点が強く求められるようになってきました。また、持続可能性や環境対応は、今後のキャリア形成においてもますます重要なテーマとなっています。

本講座では、国際的な枠組みや国内政策の動向といった教養的な内容にとどまらず、各分野での具体的な取組事例についても多く取り上げます。カーボンニュートラルへの理解を深め、日々の業務や将来の展望に活かしていただける内容となっておりますので、ぜひご参加ください。

1. 主催 土木学会（鋼構造委員会 鋼構造継続教育推進小委員会・鋼構造物のサステナビリティ調査研究小委員会）
2. 期 日 2025 年 10 月 21 日（火） 13:00～17:00
3. 会 場 土木学会講堂（WEB 配信併用）（ZOOM ウェビナーによる配信）
4. 参加費 対面方式 正会員 3,300 円、非会員 4,400 円、学生 1,100 円  
WEB 配信 正会員 3,300 円、非会員 4,400 円、学生 1,100 円  
（講座データ配信代を含む）

#### 5. プログラム

- 13:00～13:10 開会あいさつ  
水口 和之（鋼構造物のサステナビリティ調査研究小委員会委員長）
- 13:10～13:55 CN 総論（海外動向など）  
春日 昭夫（三井住友建設株式会社 エグゼクティブフェロー）
- 13:55～14:30 カーボン排出評価の現状  
中村 堇（港湾空港技術研究所）
- 14:30～14:40 休憩
- 14:40～15:00 道路分野における CN  
鈴木 雄吾（株式会社ネクスコ東日本エンジニアリング）
- 15:00～15:20 鉄道分野における CN  
他谷 周一（東海旅客鉄道株式会社）
- 15:20～15:30 休憩
- 15:30～15:50 鉄鋼製造における CN（水素還元を中心に）  
佐藤 遼一（JFEスチール株式会社）
- 15:50～16:10 鋼橋の製作・架設における CN  
平野 泰博（日本車輛製造株式会社）

- 16：10～16：30 鋼構造分野における CN 関連技術  
齊藤 史朗（株式会社 IHI インフラシステム）
- 16：30～16：50 今後の CN の方向性  
中村 聖三（長崎大学総合生産科学域 教授）
- 16：50～17：00 閉会あいさつ  
大垣 賀津雄（鋼構造継続教育推進小委員会委員長）

司会 大宅 克幸 [鋼構造継続教育推進小委員会]

なお、当日の講演内容、時間、講演者等につきましては、都合により変更の場合がありますのでご了承下さい。

6. 申込方法 参加形態にご注意の上、土木学会 HP からお申込み下さい。

【会場参加】 <https://www.jsce.or.jp/events/form/252502>

【オンライン参加】 <https://www.jsce.or.jp/events/form/2525021>

支払完了後の変更・キャンセルはできませんのでご注意ください。

7. 申込期限 クレジットカード決済：2025年10月19日（日）17：00  
コンビニ決済：2025年10月12日（日）17：00

8. CPDについて 本講座は土木学会CPD認定プログラムです。（申請中）

9. 問合せ先 （公社）土木学会 鋼構造委員会担当事務局宛  
Email：momoi” at” jsce.or.jp ※at を@に変更してください

【参考図書】「実践 建設カーボンニュートラル」

※ 購入必須ではありませんが、事前にお読みいただくことで内容の理解が深まります



価格 3,300円(税込)  
ISBN 9784296204908  
発行日 2024年06月03日  
著者名 春日昭夫 著、日経コンストラクション 編  
発行元 日経BP  
ページ数 232ページ

<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/24/04/22/01362/>

建設事業の脱炭素化の取り組みを網羅した初の書籍。材料、設計、施工、供用、解体の“建設ライフサイクル”全般の対策を伝授します

建設のサプライチェーンで排出される二酸化炭素(CO2)の量は全体の15%前後を占めるという試算結果があります。この脱炭素化には2050年までに約900兆円のコストを要します。当然のことながら、建設行為のライフサイクルで対応しなければなりません。

しかし、国内の建設分野の脱炭素化は世界と比べて周回遅れといわれています。いま、カーボンニュートラルに向けた変革に乗り出さなければ、2050年までのカーボンゼロの達成はおろか、世界的なビッグチャンスを取り逃すことになってしまいます。

書籍では建設の全ライフサイクルにおいて、それぞれの立場で実践できる脱炭化への取り組みを掲載しています。材料製作段階ではセメントや鉄鋼の主要な建設材料で低炭素化の技術開発が進められており、施工段階ではCO2の排出を削減する施工法やクリーンな建設機械の導入が加速しています。供用段階では保全工事によるCO2排出量を減らすため、予防保全の推進やできるだけ高耐久な構造物を設計段階から導入することも目指さねばなりません。また、供用中も災害からの復興やがれき処理でCO2を排出するので強靱化が重要です。財政難下のため、ESG投資とした民間資金投入の可能性を探っていく必要もあります。そして、解体後のリユースは今後の循環型経済の要であるため、解体した部材の流通システムや基準の整備が求められます。このように、建設のカーボンニュートラルは建設全般で大きなポテンシャルを秘めているわけです。

執筆者は、三井住友建設で独創的な橋の設計や施工法を生み出してきた春日昭夫氏です。今回の講座でも講演いただきます。国際コンクリート連合(fib)で日本初の会長を務めており、書籍には海外の脱炭素化の最新動向も盛り込んでいます。

建設全般におけるカーボンニュートラルの考え方、実践的な取り組みを記述した書籍はこれまでありませんでした。建設サプライチェーンに携わる技術者、経営者、事業者など全建設プレーヤーに参考になる1冊になっています。